

## 名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 中村 俊之 特任准教授



名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所  
中村 俊之 特任准教授

### 専門分野

- ・交通計画・交通工学
- ・人間行動・行動心理学・行動経済学

### キーワード

- ・人流・流動
- ・地域コミュニティ・超小型モビリティ

E-mail: [tnakamura@mirai.nagoya-u.ac.jp](mailto:tnakamura@mirai.nagoya-u.ac.jp)

Website: <http://www.trans.civil.nagoya-u.ac.jp/>

### ■大学での研究

私の専門は、交通計画、交通工学ですが、興味の対象は人間行動です。人間の行動には、多くの場合、目的や動機があり、目的地に応じて、多様な移動手段を用いています。人間は必ずしも合理的に選択および行動しないことに着目し、社会現象や経済行動を人間行動を観察し、心理学も援用し、実証的に捉えることを目的に日々、研究活動に取り組んでいます。

私は名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所に所属しています。良い研究をして良い論文を書くにとどまらず、その成果を産官民と一緒に社会実装につなげて人・社会を変えることを、実践することが求められています。以下、ピックアップして紹介します。

### ■中山間地における移動課題への挑戦

「山里×モビリティ×コミュニティ」を掛け合わせた造語が「里モビリティ」です。全国に広く分布する多くの中山間地域は、都心部と比較して交通サービスのレベルが十分ではなく、未だ自家用車での移動が不可欠です。高齢者事故の観点から免許返納の推奨・議論が進んでいますが、中山間地域では免許返納は移動を制約し、最悪の場合には移動難民となるリスクを生じさせます。また、自治体は広域な地域を抱えており、財政上、公助や共助で住民の移動を支えるには限界があります。そこで、「里モビ（中山間地域向きに仕様変更した超小型電気自動車）」を活用する取組みを提案しています。高齢者自らが安心・安全に自由意思で自在に移動できる期間を里モビによって少しでも長くすることで、生涯のQOLが高まることを期待できます。

「里モビ」の利用により、高齢者の外出機会の増加や所有



している自家用車と里モビの明確な使い分けがデータ解析からも明らかになり、他にも自宅で充電可能な「里モビ」利用によりコミュニケーションが増加することが実証されています。

EV やバッテリーの車両性能評価、高齢者の移動課題に取り組みたい研究者の皆さんと連携して取り組むたいと考えています。

### ■人流・流動のセンシングと推計手法開発

新型コロナウイルス感染症により人間の価値観、行動は大きく変わり、アフターコロナの時代における都市も大きな方向転換を求められています。都市における流動把握を目的にWi-Fi/Bluetooth センサを交通結節点（鉄道駅、空港など）、観光地などに設置し、リアルタイム観測を実施しています。データ収集とODや滞在時間などのリアルタイム解析システムについては商用的にも既に確立されています。現在研究としては、取得されたデータからトリップチェーンの推計方法、流動データに断面観測データなど異なるデータと組み合わせた全体流動推計手法の開発を進めています。

また産官学の10機関から構成される「関西広域流動解析コンソーシアム (<https://www.jriss.jp/kpfa-home>)」が2022年2月4日に設立され、私も参画しています。

主要駅（JR大阪駅・京都駅・奈良駅、近鉄難波駅など）、関西三空港（関西国際、大阪国際、神戸）などにセンサーを設置し、アフターコロナ期の交通流動変化の把握、大規模イベント時等の交通計画の策定支援、交通サービスの改善支援等に活用することを目指しています。

### 関西広域流動解析コンソーシアム



関西広域流動解析コンソーシアムは、会員等が設置するWi-Fi/Bluetooth(アクトセンサー)から得られるデータを活用し、社会が抱える課題解決を図るため、広域的な動きを監視するセンサネットワークを構築し、広域流動解析基盤の構築と実証を行うことを目的として(2022年2月4日)設立・計画した。本コンソーシアムは次の事業を行います。

1. 関西圏における人の動きの広域流動解析を実現する「広域流動解析基盤」の構築
2. 広域流動解析基盤を活用した最新システムと、発着列車の可視化システムの構築
3. 及び、広域流動解析の実証
4. 産官の事業目的に沿った公募事業、補助事業等の計画と事業の実施
5. その他コンソーシアムの目的を達成するために必要な事業